

証券コード 4690

2019年6月4日

株 主 各 位

大阪市北区芝田2丁目8番11号
日本パレットプール株式会社
代表取締役社長 田 中 和 志

第47回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第47回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますと、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2019年6月24日（月曜日）午後5時15分までに到着するようご返送いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2019年6月25日（火曜日）午前10時（受付開始は午前9時）
2. 場 所 大阪市中央区本町橋2番8号
大阪商工会議所 4階 401号会議室
（末尾の「株主総会会場ご案内」をご参照ください。）
3. 目的事項
報告事項 第47期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）事業報告及び計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役9名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、事業報告、計算書類及び株主総会参考書類の記載事項に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <https://www.npp-web.co.jp>）に掲載させていただきます。

# 提供書面

## 第47期 事業報告

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

### 1. 株式会社の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及びその成果

当事業年度における国内経済は、安定した企業収益を背景として、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善が進んだことにより、緩やかな回復基調で概ね推移しました。一方で、米中通商交渉の動向が世界経済に与える影響や、欧州圏経済の景気減速懸念等により、先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境のもとで、当社の「一貫パレチゼーション」の主要顧客である石油化学樹脂関連企業向けレンタルは、顧客側の増産によって取扱枚数が増加したこと等により通期で前期実績を上回りました。その他一般顧客もレンタル需要が年間を通じて堅調であったため、レンタル売上高合計は6億1,950百万円で前期比4億4,200百万円（7.7%）の増収となりました。販売売上高は前期の取引額を下回りましたが、当期の売上高総額は6億6,500百万円で前期比4億5,000百万円（6.5%）の増収となりました。

費用面につきましては、レンタル需要増に対応したパレット・機器の新造投資によって償却負担が増加したものの、現有資産の有効活用、運用面での効率化等のコスト削減を推進したことにより、前期と比べて売上総利益率が改善し、営業利益は2億5,700百万円（前期は営業損失700百万円）となりました。

さらに、営業外収支において、主に紛失補償金の計上により収支が改善したため、経常利益は3億6,800百万円で前期比2億7,200百万円（284.0%）の増益となりました。また、当期純利益は2億2,400百万円で前期比1億7,700百万円（372.5%）の増益となりました。

売上高明細書

単位:千円・%

| 種 類 別  |      |         | 前 事 業 年 度 |       | 当 事 業 年 度 |       | 対 前 年 比 |       |
|--------|------|---------|-----------|-------|-----------|-------|---------|-------|
|        |      |         | 金額        | 構成比   | 金額        | 構成比   | 金額      | 比率    |
| 賃貸     | レンタル | パレット    | 5,294,467 | 84.8  | 5,691,116 | 85.6  | 396,649 | 7.5   |
|        |      | その他物流機器 | 458,070   | 7.3   | 503,893   | 7.6   | 45,823  | 10.0  |
|        | 計    |         | 5,752,537 | 92.1  | 6,195,010 | 93.1  | 442,472 | 7.7   |
| 販売     | 割 賦  |         | 30,861    | 0.5   | 50,688    | 0.8   | 19,827  | 64.2  |
|        | 商 品  |         | 161,287   | 2.6   | 123,641   | 1.9   | △37,646 | △23.3 |
|        | 再製品  |         | 179,766   | 2.9   | 149,923   | 2.3   | △29,843 | △16.6 |
|        | 計    |         | 371,915   | 6.0   | 324,253   | 4.9   | △47,662 | △12.8 |
| 利用運送収入 |      |         | 120,439   | 1.9   | 131,336   | 2.0   | 10,897  | 9.0   |
| 合 計    |      |         | 6,244,892 | 100.0 | 6,650,600 | 100.0 | 405,707 | 6.5   |

(2) 設備投資及び資金調達状況

当期においては、現有資産の有効活用を優先する一方、主に11型・14型の木製パレット、プラスチック製パレットを計画的に投入いたしました。投資総額は31億10百万円であり、これらに要した資金は自己資金及び借入金により賄いました。

(3) 対処すべき課題

当社は、最近の経営環境の変化を踏まえて、レンタルを中心とする事業モデルについて、将来の成長に向けて、以下の戦略に取り組んでまいります。

- ① 国内における労働力不足の現状に対して、当社のパレットプールシステムによる一貫パレチゼーションの導入メリットをアピールして、お客様の物流の効率化や生産性の向上に貢献できるよう努めてまいります。
- ② 多様化するお客様のニーズに幅広くお応えできるよう、パレットの商品ラインナップを拡充するとともに、輸送車の積載量を安全に無理なく増やすことが可能な「フォールド・デッキ」など、パレット以外の物流機器の拡販も一層強化してまいります。

- ③ お客様に高品質のレンタルサービスをご提供するために、デポ（サービス拠点）・輸送・情報システムのネットワーク体制を充実させてまいります。併せて、お客様にパレットの発送・到着情報をインターネットで登録いただくことで物流拠点ごとのパレット在庫枚数を管理できる「簡単管理システム」をはじめとする高機能商品の開発を今後とも推進してまいります。

#### (4) 財産及び損益の状況の推移

| 区 分        | 2015年度<br>(第 44 期) | 2016年度<br>(第 45 期) | 2017年度<br>(第 46 期) | 2018年度<br>(第 47 期) |
|------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 売上高 (千円)   | 6,550,512          | 6,335,453          | 6,244,892          | 6,650,600          |
| 経常利益 (千円)  | 342,756            | 186,449            | 96,082             | 368,929            |
| 当期純利益 (千円) | 200,688            | 50,922             | 47,533             | 224,604            |
| 1株当たり当期純利益 | 238円45銭            | 60円50銭             | 56円48銭             | 266円89銭            |
| 総資産 (千円)   | 10,453,241         | 9,755,919          | 9,998,287          | 10,354,043         |
| 純資産 (千円)   | 3,956,140          | 3,973,155          | 3,966,966          | 4,112,088          |

(注) 当社は2018年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株に併合いたしました。これに伴い2015年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

#### (5) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

#### (6) 主要な事業内容 (2019年3月31日現在)

| 事業             | 主要商品その他                                                                  |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| パレット及び機器レンタル事業 | 11型・14型を中心とした木製またはプラスチック製のパレットレンタル及びネステナ・サポーター・ロールボックス・折りたたみコンテナ等の機器レンタル |
| 一貫パレチゼーション     | 一貫パレチゼーションの推進に関する事業                                                      |
| リース及び販売事業      | 輸送関連商品の割賦販売・商品販売・再製品販売及びリース                                              |
| 自動車運送事業        | 貨物利用運送事業                                                                 |

(7) 主要な営業所（支店）及び拠点（2019年3月31日現在）

| 名 称       | 所在地     | 名 称                 | 所在地     |
|-----------|---------|---------------------|---------|
| 本 社       | 大阪府大阪市  | 広 島 支 店             | 広島県広島市  |
| 北 海 道 支 店 | 北海道札幌市  | 四 国 支 店             | 香川県高松市  |
| 東 北 支 店   | 宮城県仙台市  | 福 岡 支 店             | 福岡県福岡市  |
| 新 潟 支 店   | 新潟県新潟市  | 南 九 州 支 店           | 宮崎県延岡市  |
| 宇 都 宮 支 店 | 栃木県芳賀郡  | 仙 台 サ ー ビ ス セ ン タ ー | 宮城県黒川郡  |
| 水 戸 支 店   | 茨城県笠間市  | 宇 都 宮 デ ポ           | 栃木県芳賀郡  |
| 埼 玉 支 店   | 埼玉県深谷市  | 水 戸 デ ポ             | 茨城県笠間市  |
| 関 東 支 店   | 東京都港区   | 熊 谷 デ ポ             | 埼玉県深谷市  |
| 中 部 支 店   | 愛知県名古屋市 | 柱 本 デ ポ             | 大阪府高槻市  |
| 北 陸 支 店   | 石川県金沢市  | 泉 大 津 デ ポ           | 大阪府泉大津市 |
| 関 西 支 店   | 大阪府大阪市  | 新 加 古 川 デ ポ         | 兵庫県加古川市 |
| 岡 山 支 店   | 岡山県岡山市  | 水 島 サ ー ビ ス セ ン タ ー | 岡山県倉敷市  |

(8) 使用人の状況（2019年3月31日現在）

| 使 用 人 数 | 前事業年度末比増減 | 平 均 年 齢 | 平 均 勤 続 年 数 |
|---------|-----------|---------|-------------|
| 96名     | 5名減       | 53.6歳   | 7.9年        |

(注) 使用人数は就業員数で記載しており、使用人兼務役員2名及び受入出向社員40名が含まれております。

(9) 主要な借入先及び借入額（2019年3月31日現在）

| 借 入 先                   | 借 入 金 額   |
|-------------------------|-----------|
| 株 式 会 社 三 菱 UFJ 銀 行     | 990,000千円 |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行     | 720,000千円 |
| 三 井 住 友 信 託 銀 行 株 式 会 社 | 615,000千円 |
| 株 式 会 社 南 都 銀 行         | 545,162千円 |
| 株 式 会 社 り そ な 銀 行       | 380,000千円 |
| 株 式 会 社 池 田 泉 州 銀 行     | 365,000千円 |
| 株 式 会 社 み ず ほ 銀 行       | 350,894千円 |
| 日 本 生 命 保 険 相 互 会 社     | 220,000千円 |

## 2. 株式に関する事項 (2019年3月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 3,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 850,000株 (自己株式8,465株を含む)
- (3) 株主数 384名
- (4) 大株主 (上位10位)

| 株 主 名                                                 | 持 株 数   | 持 株 比 率 |
|-------------------------------------------------------|---------|---------|
| 日 本 貨 物 鉄 道 株 式 会 社                                   | 97,100株 | 11.54%  |
| 日 本 通 運 株 式 会 社                                       | 90,000株 | 10.69%  |
| 株 式 会 社 ウ ベ モ ク                                       | 52,600株 | 6.25%   |
| 大 塚 倉 庫 株 式 会 社                                       | 46,700株 | 5.55%   |
| 株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行                                 | 42,000株 | 4.99%   |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行                                   | 40,000株 | 4.75%   |
| 株式会社南都銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)                   | 30,000株 | 3.56%   |
| 泉 北 高 速 鉄 道 株 式 会 社                                   | 20,000株 | 2.38%   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・近畿日本鉄道株式会社退職給付信託口) | 20,000株 | 2.38%   |
| 株 式 会 社 池 田 泉 州 銀 行                                   | 20,000株 | 2.38%   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)                           | 20,000株 | 2.38%   |
| 三井住友信託銀行株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)             | 20,000株 | 2.38%   |

(注) 持株比率は自己株式 (8,465株) を控除して計算しております。

## 3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役及び監査役の氏名等 (2019年3月31日現在)

| 氏名    | 地位及び担当                         | 重要な兼職の状況 |
|-------|--------------------------------|----------|
| 田中 和志 | 代表取締役社長                        |          |
| 八木 典彦 | 常務取締役 (東日本ブロック統括 関東支店長兼東京営業部長) |          |
| 涌田 正人 | 常務取締役 (総務部長兼経営企画部長 管理部門総括)     |          |
| 杉山 準  | 取締役 (西日本ブロック統括 関西支店長兼営業部長)     |          |
| 織田 良雄 | 取締役 (業務部門総括)                   |          |
| 有田 栄一 | 取締役 (顧問)                       |          |
| 杉野 彰  | 取締役                            | (注) 4 参照 |
| 吉田 昌功 | 取締役                            | (注) 4 参照 |
| 麦谷 泰秀 | 取締役                            | (注) 4 参照 |
| 新田 泰一 | 常勤監査役                          | (注) 4 参照 |
| 澁澤 洋  | 監査役                            | (注) 4 参照 |
| 内藤 明  | 監査役                            | (注) 4 参照 |

- (注) 1. 取締役杉野 彰氏、吉田昌功氏及び麦谷泰秀氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役新田泰一氏、澁澤 洋氏及び内藤 明氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 監査役新田泰一氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同証券取引所に届け出ております。
4. 社外取締役及び社外監査役の重要な兼職の状況につきましては、後記「(3) 社外役員に関する事項」に記載のとおりであります。
5. 当事業年度中における取締役及び監査役の異動は、次のとおりであります。

新任 (2018年6月26日付)

取締役 田中 和志

監査役 新田 泰一

退任 (2018年6月26日付)

取締役 永田 浩一

監査役 上月 康嗣

取締役 麦谷 泰秀

監査役 内藤 明

監査役 大西 由辰

## (2) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分                | 員 数         | 報酬等の総額                 |
|--------------------|-------------|------------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 10名<br>(4名) | 60,672千円<br>(6,228千円)  |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 5名<br>(5名)  | 12,792千円<br>(12,792千円) |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 15名<br>(9名) | 73,464千円<br>(19,020千円) |

(注)取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

## (3) 社外役員に関する事項

### ① 社外取締役 杉野 彰 氏

#### ア. 重要な兼職先と当社との関係

全国通運株式会社 代表取締役社長

同社と当社との間に開示すべき関係はありません。

#### イ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度に開催された取締役会11回のうち10回に出席し、出席した取締役会においては、社外取締役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

### ② 社外取締役 吉田 昌功 氏

#### ア. 重要な兼職先と当社との関係

近鉄グループホールディングス株式会社 取締役社長

近畿日本鉄道株式会社 取締役

株式会社近鉄・都ホテルズ 取締役会長

近鉄リテールホールディングス株式会社 取締役

奈良観光土地株式会社 代表取締役

上記の会社と当社との間に開示すべき関係はありません。

イ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度に開催された取締役会11回全てに出席し、出席した取締役会においては、社外取締役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

③ 社外取締役 麦谷 泰秀 氏

ア. 重要な兼職先と当社との関係

日本貨物鉄道株式会社 関西支社営業部長  
同社と当社との間に開示すべき関係はありません。

イ. 当事業年度における主な活動状況

2018年6月26日就任以降に開催された取締役会 9 回全てに出席し、出席した取締役会においては、社外取締役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

④ 社外監査役（常勤） 新田 泰一 氏

ア. 重要な兼職先と当社との関係

該当事項はありません。

イ. 当事業年度における主な活動状況

(i) 取締役会への出席状況及び発言状況

2018年6月26日就任以降に開催された取締役会 9 回全てに出席し、社外監査役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

(ii) 監査役会への出席状況及び発言状況

2018年6月26日就任以降に開催された監査役会 9 回全てに出席し、社外監査役として行った監査の報告をし、他の監査役が行った監査について適宜質問するとともに、必要に応じ社外の立場から意見を述べております。

⑤ 社外監査役 澁澤 洋 氏

ア. 重要な兼職先と当社との関係

泉北高速鉄道株式会社 代表取締役常務取締役  
同社と当社との間に開示すべき関係はありません。

イ. 当事業年度における主な活動状況

(i) 取締役会への出席状況及び発言状況

当事業年度に開催された取締役会11回全てに出席し、社外監査役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

(ii) 監査役会への出席状況及び発言状況

当事業年度に開催された監査役会11回全てに出席し、社外監査役として行った監査の報告をし、他の監査役が行った監査について適宜質問するとともに、必要に応じ社外の立場から意見を述べております。

⑥ 社外監査役 内藤 明 氏

ア. 重要な兼職先と当社との関係

セントラル東短証券株式会社 顧問  
東京短資株式会社 顧問  
上記の会社と当社との間に開示すべき関係はありません。

イ. 当事業年度における主な活動状況

(i) 取締役会への出席状況及び発言状況

2018年6月26日就任以降に開催された取締役会 9回全てに出席し、社外監査役として、毎回報告事項や決議事項について適宜質問をするなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

(ii) 監査役会への出席状況及び発言状況

2018年6月26日就任以降に開催された監査役会 9回全てに出席し、社外監査役として行った監査の報告をし、他の監査役が行った監査について適宜質問するとともに、必要に応じ社外の立場から意見を述べております。

## 5. 会計監査人に関する事項

(1) 会計監査人の名称 有限責任監査法人トーマツ

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

| 区 分              | 2018年度<br>(第47期) |
|------------------|------------------|
| 監査証明業務に基づく報酬 (注) | 20,500千円         |

(注) 当社が有限責任監査法人トーマツと締結した監査契約において、会社法上の会計監査人の監査に対する報酬等の額と金融商品取引法の監査に対する報酬等の額を明確に区分しておらず、また、実質的に区分もできないためこれらの合計額を記載しております。

(3) 会計監査人の報酬額の同意

監査役会は、取締役、社内関係部署及び会計監査人から必要な資料の入手や報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画、報酬見積り、職務執行状況などを検討し、会社法第399条第1項に定める同意を行っております。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難であると認められる場合、監査の適正性をより高めるために会計監査人の変更が妥当であると判断される場合、その他必要があると判断した場合は、会計監査人の解任または不再任に関する株主総会の議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。

監査役会が選定した監査役は、解任または不再任決定後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任または不再任した旨とその理由を説明いたします。

(5) 当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

20,500千円

## 6. 業務の適正を確保するための体制

当社は、業務の適正を確保するための体制整備に関しまして、2006年5月26日開催の取締役会において内部統制システム基本方針の制定を決議いたしました。その後、2015年5月1日施行の改正会社法及び同施行規則に対応するため、同年6月25日の取締役会決議により基本方針の一部を改定いたしております。改定後の基本方針は以下のとおりであります。

### (1) 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社は、経営の基本方針として「企業理念」と「日本パレットプール行動憲章」を制定し、社会的責任と公共的使命を自覚し、社会倫理と遵法精神を重視する企業風土を目指しています。具体的には、代表取締役がその精神を全社員に継続的に徹底しております。
- ② 総務部担当取締役をコンプライアンス全体に関する総括責任者に任命して、各部門との連携を図るほか、原則として3カ月に1回コンプライアンス委員会を開催して全社的なコンプライアンス体制の構築、維持、整備、推進にあたりております。
- ③ 監査役及び内部監査室は連携し、コンプライアンス体制の調査、法令並びに定款上の問題の有無を調査し、取締役会に報告します。取締役会は、定期的にコンプライアンス体制を見直し、問題点の把握と改善に努めます。
- ④ 当社は、「内部通報規程」を定め、社員が法令違反行為等を知ったときは、直ちに会社に通報しなければならない、また、会社において法令違反行為が行われていることを知りながら、それを黙認してはならないといたしました。併せて、法令違反行為等を会社に通報した社員に対する報復行為を禁止いたしております。

### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役の職務の執行に係る情報については、稟議規程、文書管理規程にもとづき、その保存媒体や職務に応じ適切に保存及び管理を行っております。

### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 内部統制を推進する組織のもとに、リスク管理を統括する部門を置き、「危機管理規程」等のリスク管理規程を定め、リスク管理体制の構築及び運用を行います。
- ② 各部門は、それぞれの部門に関するリスクの管理を行い、リスク管理を統括する部門へ定期的に、リスク管理の状況を報告し連携を図ります。統括する部門は、必要に応じて顧問弁護士事務所等外部の専門家との連携を図り、経営会議において対策を協議いたします。

### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 当社は、定例の取締役会を毎月1回開催し、経営上の重要事項の意思決定並びに取締役の職務の執行状況の監督等を行います。緊急の重要事項が発生した場合には、臨時取締役会を適宜開催いたします。
- ② 取締役の機能をより強化し、経営効率を向上させること、及び業務執行に関する意思決定の迅速化を図るため、常勤取締役、常勤監査役及び各部長が出席する経営会議を、毎月1回業績集約後に開催して、重要かつ緊急性の高い経営課題について付議し、対応方針を決定いたしております。

### (5) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役が補助すべき使用人を求めた場合は、監査の職務を補助する使用人を監査室及び他部署から人選するものといたします。当該使用人が兼務する場合は、監査役に係る業務に優先して従事するものといたします。

### (6) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

使用人の独立性を確保するため、任命、異動、考課等、人事権に係る事項の決定は事前に常勤監査役に報告し、了承を得るものといたします。

**(7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

- ① 各監査役は当社が開催する取締役会に出席するとともに、常勤監査役は取締役会、経営会議ほか重要な会議にも出席し、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を監視します。さらに、監査役は、必要に応じて主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、取締役及び使用人に対して説明等の報告を求めることができるものとしています。
- ② 取締役及び使用人は、会社に著しい損害を及ぼす事実が発生したまたは発生するおそれがあるときは、監査役に報告するものとしています。監査役へ報告をした取締役及び使用人に対し、監査役へ報告したことを理由として不利な扱いを行うことを禁止いたします。
- ③ 監査役は、会計監査人、内部監査部門との情報交換を行うなど連携を図り、監査の実効性を確保することとしています。

**(8) 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項**

監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払い等の請求をしたときは、当該請求に係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要なでないことを証明した場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理いたします。

## **7. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要**

当社は上記に掲げた業務の適正を確保するための基本的な体制を整備済みではありますが、内部統制手続きに関しましては、組織や業務の変化、変更を評価して見直しを適時適切に行い、適正な運用を図っております。当事業年度における取組みは以下のとおりであります。

- ① 主な会議の開催状況として、取締役会は11回開催し毎回複数名の社外取締役、社外監査役が出席いたしております。その他、監査役会は11回、経営会議は12回、内部統制システム推進委員会は4回、コンプライアンス委員会は4回それぞれ開催いたしております。

内部統制システム推進委員会においては、内部統制システムの整備状況を確認し、また、内部監査室を中心にその運用状況を点検し、その結果を取締役に報告しております。コンプライアンス委員会においては、全従業員（常勤役

員含む) を対象に第2回コンプライアンス・アンケートを実施し、その結果を踏まえ上長に対するコンプライアンス教育を実施いたしました。

- ② 監査役は、監査役会において定めた監査計画にもとづき監査を行うとともに、代表取締役社長及び他の取締役と意思疎通を図るほか、内部監査室、会計監査人との間で意見交換、情報交換等の連携を図っております。
- ③ 内部監査室は、監査計画にもとづき当社各部門、支店の業務監査、会計監査並びに内部統制監査を実施いたしております。

# 貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部              |                   | 負 債 の 部                |                   |
|----------------------|-------------------|------------------------|-------------------|
| 科 目                  | 金 額               | 科 目                    | 金 額               |
| <b>流 動 資 産</b>       | <b>1,524,459</b>  | <b>流 動 負 債</b>         | <b>3,760,250</b>  |
| 現金及び預金               | 566,966           | 買掛金                    | 1,078,577         |
| 受取手形                 | 18,430            | 短期借入金                  | 1,030,000         |
| レンタル未収金              | 752,391           | 1年内返済予定の長期借入金          | 1,124,544         |
| 売掛金                  | 138,607           | 未払金                    | 349,840           |
| 貯蔵品                  | 6,650             | 未払法人税等                 | 103,206           |
| 前払費用                 | 17,601            | 未払消費税等                 | 11,277            |
| 未収入金                 | 22,090            | 前受金                    | 369               |
| その他                  | 3,312             | 預り金                    | 1,343             |
| 貸倒引当金                | △1,592            | 賞与引当金                  | 44,231            |
| <b>固 定 資 産</b>       | <b>8,829,584</b>  | 繰延割賦売上利益               | 16,859            |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>   | <b>8,480,165</b>  | <b>固 定 負 債</b>         | <b>2,481,704</b>  |
| 貸与資産                 | 7,810,764         | 長期借入金                  | 2,031,512         |
| 社用資産                 | 669,401           | 長期未払金                  | 400,599           |
| 建 物                  | 133,949           | 退職給付引当金                | 18,168            |
| 構 築 物                | 20,505            | 資産除去債務                 | 31,424            |
| 機 械 及 び 装 置          | 15,789            |                        |                   |
| 車 両 及 び 運 搬 具        | 2,318             |                        |                   |
| 工 具 器 具 及 び 備 品      | 13,712            |                        |                   |
| 土 地                  | 483,126           | <b>負 債 合 計</b>         | <b>6,241,955</b>  |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>   | <b>64,852</b>     | <b>純 資 産 の 部</b>       |                   |
| ソフトウェア               | 61,105            | <b>株 主 資 本</b>         | <b>4,090,546</b>  |
| その他                  | 3,747             | 資 本 金                  | 767,955           |
| <b>投 資 其 他 の 資 産</b> | <b>284,566</b>    | 資 本 剰 余 金              | 486,455           |
| 投資有価証券               | 202,838           | 資 本 準 備 金              | 486,455           |
| 長期前払費用               | 464               | 利 益 剰 余 金              | 2,853,779         |
| 繰延税金資産               | 32,489            | 利 益 準 備 金              | 96,342            |
| 差入保証金                | 48,773            | その他利益剰余金               | 2,757,436         |
| 破産更生債権等              | 4,592             | 別 途 積 立 金              | 1,499,500         |
| 貸倒引当金                | △4,592            | 繰越利益剰余金                | 1,257,936         |
|                      |                   | <b>自 己 株 式</b>         | <b>△17,642</b>    |
|                      |                   | 評 価 ・ 換 算 差 額 等        | 21,541            |
|                      |                   | その他有価証券評価差額金           | 21,541            |
| <b>資 産 合 計</b>       | <b>10,354,043</b> | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>4,112,088</b>  |
|                      |                   | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>10,354,043</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(2018年4月1日から)  
(2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                     | 金       | 額         |
|-------------------------|---------|-----------|
| 売 上 高                   |         | 6,650,600 |
| 売 上 原 価                 |         | 5,474,593 |
| 売 上 総 利 益               |         | 1,176,006 |
| 割 賦 販 売 未 実 現 利 益 繰 入 額 | 11,210  |           |
| 割 賦 販 売 未 実 現 利 益 戻 入 額 | 10,096  | 1,113     |
| 差 引 売 上 総 利 益           |         | 1,174,892 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     |         | 917,429   |
| 営 業 利 益                 |         | 257,463   |
| 営 業 外 収 益               |         |           |
| 受 取 利 息 ・ 配 当 金         | 4,880   |           |
| 紛 失 補 償 金               | 108,561 |           |
| 廃 棄 物 処 分 収 入           | 32,091  |           |
| そ の 他                   | 321     | 145,854   |
| 営 業 外 費 用               |         |           |
| 支 払 利 息                 | 34,388  | 34,388    |
| 経 常 利 益                 |         | 368,929   |
| 特 別 損 失                 |         |           |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損       | 9,858   |           |
| 固 定 資 産 除 却 損           | 850     | 10,708    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益         |         | 358,221   |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税   | 127,902 |           |
| 法 人 税 等 調 整 額           | 5,714   | 133,617   |
| 当 期 純 利 益               |         | 224,604   |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から  
2019年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本 |         |           |                 |               |                   |             |         |             |
|-------------------------|---------|---------|-----------|-----------------|---------------|-------------------|-------------|---------|-------------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 金   | 利 益 剰 余 金 |                 |               |                   |             | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
|                         |         | 資 本 金   | 利 益 剰 余 金 | そ の 他 利 益 剰 余 金 |               |                   | 利 益 剰 余 金 計 |         |             |
|                         |         |         |           | 別 途 積 立 金       | 繰 越 利 益 剰 余 金 | そ の 他 利 益 剰 余 金 計 |             |         |             |
| 当 期 首 残 高               | 767,955 | 486,455 | 96,342    | 1,499,500       | 1,092,241     | 2,591,741         | 2,688,083   | △17,615 | 3,924,878   |
| 事業年度中の変動額               |         |         |           |                 |               |                   |             |         |             |
| 剰余金の配当                  |         |         |           |                 | △58,908       | △58,908           | △58,908     |         | △58,908     |
| 当期純利益                   |         |         |           |                 | 224,604       | 224,604           | 224,604     |         | 224,604     |
| 自己株式の取得                 |         |         |           |                 |               |                   |             | △27     | △27         |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額） |         |         |           |                 |               |                   |             |         |             |
| 事業年度中の変動額合計             | —       | —       | —         | —               | 165,695       | 165,695           | 165,695     | △27     | 165,668     |
| 当 期 末 残 高               | 767,955 | 486,455 | 96,342    | 1,499,500       | 1,257,936     | 2,757,436         | 2,853,779   | △17,642 | 4,090,546   |

|                         | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |                        | 純 資 産 合 計 |
|-------------------------|------------------|------------------------|-----------|
|                         | その他有価証券<br>評価差額金 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |           |
| 当 期 首 残 高               | 42,087           | 42,087                 | 3,966,966 |
| 事業年度中の変動額               |                  |                        |           |
| 剰余金の配当                  |                  |                        | △58,908   |
| 当期純利益                   |                  |                        | 224,604   |
| 自己株式の取得                 |                  |                        | △27       |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額） | △20,546          | △20,546                | △20,546   |
| 事業年度中の変動額合計             | △20,546          | △20,546                | 145,122   |
| 当 期 末 残 高               | 21,541           | 21,541                 | 4,112,088 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの …………… 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの …………… 移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品 …………… 総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

貸与資産 …………… 賃貸用器具（借主側の所有権移転ファイナンスリース取引を含む）については、過去の実績に基づく見積耐用年数（5年から8年）による定額法  
なお、賃貸用器具の償却対象額は、購入年度別に先入先出法により集計しております。

社用資産 …………… 建物並びに2016年4月1日以降に取得した構築物については、定額法  
その他については、定率法

#### (2) 無形固定資産 …………… 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法

#### (3) 長期前払費用 …………… 定額法

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金 …………… 期末の債権に対する貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金 …………… 従業員の賞与支払に備えて、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。
- (3) 退職給付引当金 …………… 従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に自己都合期末要支給額から中小企業退職金共済制度及び特定退職金共済制度より支給される額を控除した額を退職給付引当金とする方法を用いた簡便法を適用しております。

### 4. 収益及び費用の計上基準

- 割賦販売の計上基準 …………… 商品引渡時に割賦販売に係る債権総額を売上高として計上し、回収期日未到来の売掛金に対応する未実現利益は繰延割賦売上利益として繰延処理しております。

### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- (1) ヘッジ会計の方法 ……………
  - ① ヘッジ会計の方法  
金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。
  - ② ヘッジ手段とヘッジ対象  
ヘッジ手段：金利スワップ  
ヘッジ対象：借入金
  - ③ ヘッジ方針  
借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。
  - ④ ヘッジ有効性評価の方法  
金利スワップの想定元本、利息の受払条件（利子率、利息の受払日等）及び契約期間がほぼヘッジ対象と同一であり、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性評価を省略しております。
- (2) 消費税等の会計処理 …………… 消費税等の会計処理については、税抜方式によるため、

(表示方法の変更に関する注記)

(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示する方法に変更しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

土地貸借契約に伴う原状回復費用の担保として、定期預金10,907千円を差入っております。

2. 有形固定資産の減価償却累計額

10,319,686千円

(うち貸与資産

9,424,311千円)

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

|       | 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 当事業年度<br>増加株式数 | 当事業年度<br>減少株式数 | 当事業年度末株式数 |
|-------|-------|------------|----------------|----------------|-----------|
| 発行済株式 | 普通株式  | 8,500,000株 | —              | 7,650,000      | 850,000株  |
| 自己株式  | 普通株式  | 84,518株    | 14株            | 76,067         | 8,465株    |

- (注) 1. 当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株に併合いたしました。  
これにより、発行済株式総数は7,650,000株減少し、850,000株となっております。  
2. 自己株式の株式数の増加は、株式併合に伴う端数株式の買取りによる増加14株であります。  
3. 自己株式の株式数の減少は、株式併合による減少76,067株であります。

2. 配当に関する事項

① 配当金支払額

2018年6月26日開催の第46回定時株主総会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 58,908千円
- ・1株当たり配当額 7円
- ・基準日 2018年3月31日
- ・効力発生日 2018年6月27日

- (注) 当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株に併合いたしました。  
1株当たり配当額につきましては、当該株式併合前の金額を記載しております。

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

2019年6月25日開催の第47回定時株主総会において次のとおり付議いたします。

- ・配当金の総額 58,907千円
- ・配当金の原資 利益剰余金
- ・1株当たり配当額 70円
- ・基準日 2019年3月31日
- ・効力発生日 2019年6月26日

(税効果会計に関する注記)

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|                |           |
|----------------|-----------|
| 繰延税金資産         |           |
| 賞与引当金          | 13,525千円  |
| 貸与資産           | 16,411千円  |
| 退職給付引当金        | 5,555千円   |
| 投資有価証券評価損      | 12,341千円  |
| 資産除去債務         | 9,609千円   |
| 減損損失           | 47,714千円  |
| その他            | 9,383千円   |
| 繰延税金資産小計       | 114,542千円 |
| 評価性引当額         | △70,790千円 |
| 繰延税金資産合計       | 43,752千円  |
| 繰延税金負債         |           |
| 有形固定資産（除去費用資産） | △3,072千円  |
| その他有価証券評価差額金   | △8,190千円  |
| 繰延税金負債合計       | △11,262千円 |
| 繰延税金資産の純額      | 32,489千円  |

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 法定実効税率             | 30.6% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.4%  |
| 住民税均等割             | 5.0%  |
| 評価性引当額の増減          | 1.4%  |
| その他                | △0.1% |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率  | 37.3% |

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金及び投資信託等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

営業債権である受取手形、レンタル未収金、売掛金に係る顧客の信用リスクは、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財政状態の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減に努めることによりリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが2ヵ月以内の支払期日であります。

短期借入金は主に運転資金に係る資金調達であり、長期借入金、割賦契約に基づく長期未払金は主に設備投資に係る資金調達であります。長期借入金の一部については、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であり、社内規程に沿った稟議決裁に基づき、実需の範囲で行うこととしております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法等については、前述の重要な会計方針に係る事項に関する注記「5.（1）ヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

|                  | 貸借対照表計上額  | 時 価       | 差 額     |
|------------------|-----------|-----------|---------|
| (1)現金及び預金        | 566,966   | 566,966   | —       |
| (2)受取手形          | 18,430    | 18,430    | —       |
| (3)レンタル未収金       | 752,391   | 752,391   | —       |
| (4)売掛金           | 138,607   | 138,607   | —       |
| (5)投資有価証券        | 202,838   | 202,838   | —       |
| 資産計              | 1,679,235 | 1,679,235 | —       |
| (6)買掛金           | 1,078,577 | 1,078,577 | —       |
| (7)短期借入金         | 1,030,000 | 1,030,000 | —       |
| (8)長期借入金(※1)     | 3,156,056 | 3,154,659 | △1,397  |
| (9)長期未払金(割賦)(※2) | 718,194   | 706,483   | △11,711 |
| 負債計              | 5,982,828 | 5,969,720 | △13,108 |
| (10)デリバティブ取引     | —         | —         | —       |

(※1) 1年以内に返済予定の長期借入金を含んでおります。

(※2) 1年以内に期限が到来する長期未払金(割賦)を含んでおります。

(注) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金、(2)受取手形、(3)レンタル未収金、(4)売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5)投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっています。

(6)買掛金及び(7)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(8)長期借入金及び(9)長期未払金(割賦)

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入等を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(10)参照)、当該金利をスワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方式によっております。

(10)デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(8)参照)。

(関連当事者との取引に関する注記)

法人主要株主

| 属性             | 会社等の名称           | 住所            | 資本金<br>(千円) | 事業の<br>内容     | 議決権等<br>の所有<br>(被所有)<br>割合 | 関連当事者<br>との関係                                                         | 取引の内容                                   | 取引金額<br>(千円)  | 科目          | 期末残高<br>(千円) |
|----------------|------------------|---------------|-------------|---------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------|-------------|--------------|
| 法人<br>主要<br>株主 | 日本通<br>運株式<br>会社 | 東京<br>都港<br>区 | 70,175,276  | 貨物自動車<br>運送事業 | (被所有)<br>直接<br>10.69%      | 当社のパレット<br>等のレンタルを<br>行っており、当<br>社パレット等の<br>運送・保管・修<br>理等を行って<br>います。 | 当社パレ<br>ット等のレン<br>タル                    | 542,441       | レンタル<br>未収金 | 113,048      |
|                |                  |               |             |               |                            |                                                                       | 当社パレット等の<br>販売                          | 62,707        | 売掛金         | 62,160       |
|                |                  |               |             |               |                            |                                                                       | 当社パレット等の<br>運送                          | 206,498       | 買掛金         | 36,829       |
|                |                  |               |             |               |                            |                                                                       | 当社パレット等の<br>修理                          | 4,050         | 買掛金         | 723          |
|                |                  |               |             |               |                            |                                                                       | 当社パレット等の<br>保管                          | 91,776        | 買掛金         | 15,508       |
|                |                  |               |             |               |                            |                                                                       | 当社レンタル<br>パレット<br>紛失に係る<br>紛失補償金<br>の受取 | 24,838        | 未収入金        | 3,921        |
|                |                  |               |             |               |                            |                                                                       | 出向者の受入                                  | 出向社員給<br>与の支払 | 257,187     | —            |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

(注2) 価格その他の取引条件は、他の一般取引先と同様であります。

紛失補償金については、他の一般取引先と同様に、その都度価格交渉の上、決定しております。

出向社員に対する給与の支払額は、出向元法人の給与相当額をもとに決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 4,886円41銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 266円89銭   |

## 計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2019年5月16日

日本パレットプール株式会社  
取締役会 御中

#### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 辻内 章 (印)

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上坂 岳大 (印)

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本パレットプール株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第47期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの第47期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下の通り報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、重点監査項目を設定し、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、監査室その他の使用人等と意思疎通をはかり、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要支店において業務及び財産の状況を調査いたしました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年（2005年）10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月23日

日本パレットプール株式会社 監査役会

常勤監査役 新 田 泰 一 (印)

監 査 役 澁 澤 洋 (印)

監 査 役 内 藤 明 (印)

(注) 常勤監査役新田泰一、監査役澁澤洋並びに監査役内藤明は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案および参考事項

#### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

第47期の期末配当につきましては、当事業年度の業績並びに今後の事業展開等を勘案いたしまして、以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項およびその総額  
当社普通株式1株につき金70円といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は、58,907,450円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
2019年6月26日といたしたいと存じます。

## 第2号議案 取締役9名選任の件

取締役全員（9名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役9名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)              | 略歴、当社における地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 所有する当社株式の数 |
|-------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | 辻 幸 則<br>(1958年2月13日生)    | 1980年4月 日本通運株式会社 入社<br>2006年10月 同社 徳島支店長<br>2008年10月 同社 大津支店長<br>2011年2月 同社 執行役員<br>2014年5月 同社 常務執行役員<br>2015年5月 株式会社日通自動車学校<br>代表取締役社長<br>2019年5月 日本通運株式会社 顧問<br>2019年6月 当社 顧問(現任)                                                                                                                             | 一百株        |
| 2     | 依 田 あつし 敦<br>(1965年3月27日) | 1988年4月 日本貨物鉄道株式会社<br>入社<br>2000年3月 同社 開発本部サブリーダー<br>2001年3月 同社 関西支社広島支店<br>担当課長<br>2003年3月 同社 東北支社青森営業<br>支店長<br>2005年3月 同社 総合企画本部経営<br>企画部グループリーダー<br>2006年6月 同社 総合企画本部経営<br>企画部副部長<br>2010年6月 神奈川臨海通運株式会社<br>代表取締役社長<br>2013年6月 日本貨物鉄道株式会社<br>関西支社広島支店長<br>2017年6月 株式会社ジェイアール貨<br>物・中国ロジスティクス<br>代表取締役社長(現任) | 一百株        |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                        | 略歴、当社における地位、担当<br>(重 要 な 兼 職 の 状 況)                                                                                                                                                                                         | 所有する当社<br>株 式 の 数 |
|-----------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 3         | すぎ やま ひとし<br>杉 山 準<br>(1958年8月12日生)     | 1981年7月 日本通運株式会社 入社<br>2009年5月 同社 大阪西支店長<br>2010年10月 同社 大阪コンテナ支店<br>長<br>2014年5月 同社 大阪支店部長兼関<br>西営業部長<br>2016年5月 当社 関西支店部長<br>2016年6月 当社 取締役 関西ブロッ<br>ク統括関西支店長兼営<br>業部長<br>2016年10月 当社 取締役 西日本ブ<br>ロック統括関西支店長兼<br>営業部長 (現任) | 6百株               |
| 4         | うし じま ひろ あき<br>牛 嶋 浩 彰<br>(1960年2月25日生) | 1982年4月 日本通運株式会社 入社<br>2007年8月 同社 福岡警送支店長<br>2011年5月 同社 関東警送支店部長<br>2016年5月 同社 関東警送支店長<br>2019年4月 同社 総務・労働部勤務<br>2019年5月 当社 関東支店長兼東京<br>営業部長 (現任)                                                                           | 一百株               |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                     | 略歴、当社における地位、担当<br>(重 要 な 兼 職 の 状 況)                                                                                                                                                                                                                                           | 所有する当社<br>株 式 の 数 |
|-----------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 5         | お だ よし お<br>織 田 良 雄<br>(1955年5月15日生) | 1979年4月 日本国有鉄道 入社<br>1987年4月 日本貨物鉄道株式会社<br>関西支社 岡山支店<br>2002年2月 同社 関西支社 米子総<br>合鉄道部長<br>2004年3月 同社 関西支社 大阪貨<br>物ターミナル駅長<br>2007年3月 同社 関西支社 広島支<br>店副支店長<br>2009年3月 同社 関西支社 四国支<br>店長<br>2012年7月 水島臨海鉄道株式会社<br>総務部担当部長<br>2015年6月 同社 取締役総務部長<br>2017年6月 当社 取締役（業務部門<br>総括）（現任） | 3百株               |
| 6         | やま にし たかし<br>山 西 孝<br>(1960年6月10日生)  | 1983年4月 日本通運株式会社 入社<br>2008年11月 日通大阪物流株式会社<br>代表取締役社長<br>2010年6月 パナソニック電工物流株<br>式会社 総務部部長<br>2013年2月 日本通運株式会社 大阪<br>支店調査役<br>2017年1月 同社 大阪支店部長<br>2019年5月 当社 総務部長兼経営企<br>画部長（現任）                                                                                              | 一百株               |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                   | 略歴、当社における地位、担当<br>(重 要 な 兼 職 の 状 況)                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当社<br>株 式 の 数 |
|-----------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 7         | すぎ の あきら<br>杉 野 彰<br>(1949年12月6日生) | 1975年4月 日本国有鉄道 入社<br>1999年6月 日本貨物鉄道株式会社<br>総務部グループリーダー<br>1999年11月 同社 関東支社営業部長<br>2001年3月 同社 ロジスティクス総<br>本部営業推進本部営業部<br>長<br>2004年6月 同社 執行役員ロジステ<br>イクス本部営業部長<br>2008年6月 同社 常務執行役員ロジ<br>スティクス本部営業部長<br>2009年6月 同社 取締役関西支社長<br>2009年6月 当社 取締役(現任)<br>2011年6月 全国通運株式会社代表取<br>締役社長(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>全国通運株式会社 代表取締役社長 | 一百株               |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                       | 略歴、当社における地位、担当<br>(重 要 な 兼 職 の 状 況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 所有する当社<br>株 式 の 数 |
|-----------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 8         | よし だ よし のり<br>吉 田 昌 功<br>(1952年3月27日生) | <p>1975年4月 近畿日本鉄道株式会社<br/>(現 近鉄グループホールディングス株式会社)<br/>入社</p> <p>2006年6月 同社 執行役員</p> <p>2009年6月 同社 常務取締役</p> <p>2011年5月 株式会社近鉄百貨店<br/>取締役</p> <p>2011年6月 近畿日本鉄道株式会社<br/>常務取締役 退任</p> <p>2011年7月 株式会社近鉄百貨店<br/>取締役副社長執行役員</p> <p>2013年6月 近畿日本鉄道株式会社<br/>取締役副社長</p> <p>2015年4月 近鉄グループホールディングス株式会社 (「近畿日本鉄道株式会社」から商号変更) 取締役社長 (現任)</p> <p>2017年6月 当社 取締役 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況)</p> <p>近鉄グループホールディングス株式会社<br/>取締役社長</p> <p>近畿日本鉄道株式会社 取締役</p> <p>株式会社近鉄・都ホテルズ 取締役会長</p> <p>近鉄リテールホールディングス株式会社<br/>取締役</p> <p>奈良観光土地株式会社 代表取締役</p> | 2百株               |

| 候補者<br>番号 | 氏 名<br>(生 年 月 日)                          | 略歴、当社における地位、担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 所有する当社<br>株式の数 |
|-----------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 9         | こ とう よう じ ろう<br>五 島 洋 次 郎<br>(1967年8月2日生) | 1991年4月 日本貨物鉄道株式会社<br>入社<br>2002年4月 同社 東海支社浜松営業<br>支店長<br>2004年3月 同社 本社ロジスティク<br>ス総本部営業推進本部営<br>業部サブリーダー<br>2005年5月 同社 ロジスティクス本<br>部営業部グループリーダ<br>ー<br>2006年3月 同社 東北支社次長<br>2010年6月 同社 本社ロジスティク<br>ス本部国際物流開発部グ<br>ループリーダー<br>2013年6月 株式会社ジェイアール貨<br>物・インターナショナル<br>常務取締役<br>2014年12月 日本フレートライナー株<br>式会社 取締役<br>2018年6月 同社 常務取締役 (現<br>任)<br>(重要な兼職の状況)<br>日本フレートライナー株式会社 常務取<br>締役 | 一百株            |

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 杉野 彰氏、吉田昌功氏及び五島洋次郎氏は、社外取締役候補者であります。
3. 社外取締役候補者の選任理由について  
杉野 彰氏、吉田昌功氏及び五島洋次郎氏につきましては、これまで培ってこられた経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の経営に提言いただくため、社外取締役として選任をお願いするものであります。
4. 杉野 彰氏及び吉田昌功氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本定時株主総会終結の時をもって、それぞれ10年および2年となります。
5. 辻幸則氏、依田敦氏、牛嶋浩彰氏、山西孝氏及び五島洋次郎氏は新任の候補者であります。
6. 社外取締役との責任限定契約について  
当社は、杉野 彰氏及び吉田昌功氏との間で、定款に基づき、賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令に定める額としており、本定時株主総会において、各氏の再任が承認可決された場合、本契約を継続する予定であります。また、五島洋次郎氏の選任が承認可決された場合、同様の契約を締結する予定であります。

以 上



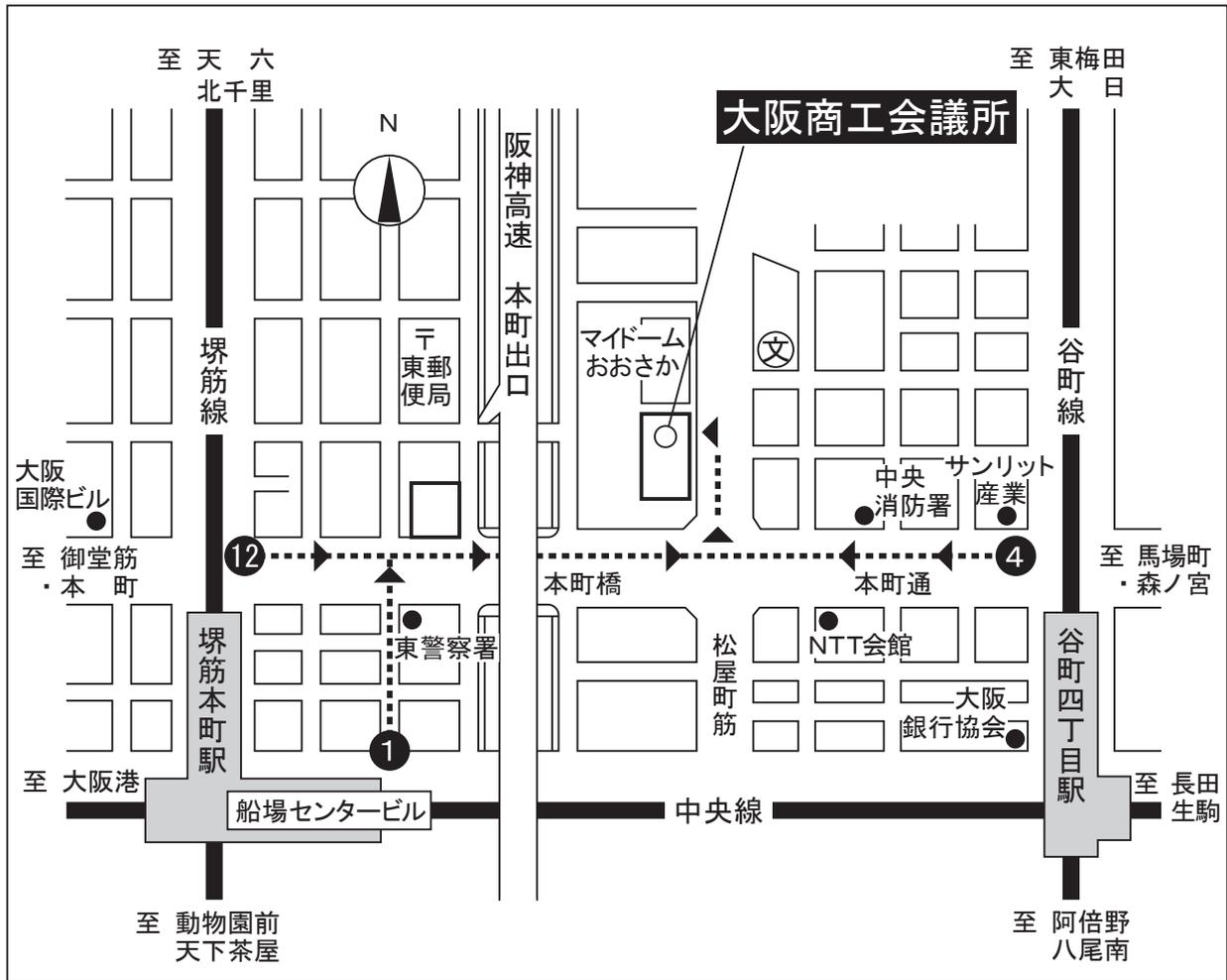
# 株主総会会場ご案内

会場 大阪市中央区本町橋2番8号

大阪商工会議所 4階 401号会議室

交通 地下鉄 堺筋線・中央線 堺筋本町下車①⑫番出口より徒歩約10分

谷町線 谷町四丁目下車④番出口より徒歩約10分



お願い：当日はお車でのご来場はご遠慮願います。